

福島県特別支援教育振興会

いわき支部

会報

第 27 号

発 行 者
 福島県特別支援教育振興会
 いわき支部長 大 谷 明

事 務 局
 福島県立平支援学校
 いわき市平上平窪羽黒40-45
 〒970 TEL(0246)24-2501
 -8001 FAX(0246)23-5135
 ホームページ <http://sep-iwaki.com/>

本会の更なる発展と新規会員の拡大を目指して

福島県特別支援教育振興会 いわき支部長 大 谷 明



寒暖差が激しい最近の天候の中で、お子様達は元気に過ごしているでしょうか。保護者や会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

今年は新規事業として、昨年度実施したフォーラム「障害者差別解消法を考える」の報告に併せ、市民・学校・行政等関係機関に当会や加盟各校を広報・啓発を徹底するためのパンフレットの発行を計画し、配布に向けて編集作業に尽力しております。また、秋を迎え、各支援学校での文化祭等が展開されている中、当会としても大いに協賛したく、訪問や激励に努めております。

先般はいわき支援学校の演劇「美女と野獣」を観劇させていただき、その熱演力演に深い感動を覚えました。同時にその会場の一角において、くぼた校の活動が写真を活用しながら発表されておりました。内容は、当校が勿来高等学校との協働連携学習活動を多様かつ計画的に進め、地域や関係機関等に高く評価されているというものでした。これを拝察し、当会としても他の支援学校と同様にその充実に向けて支援していく必要があると感じた次第です。

今後、当会では事業計画を適切に執行していくと共に、平成25年度に実施した「東日本大震災を踏まえた障がいのある児童生徒の避難の現状と課題に関するフォーラム」の結果を踏まえ、新年度に向けての事業展開を模索して参ります。そこで注視すべき点は、障害者差別解消法への適切な対処の方法や危機管理等、障がい児教育において特別支援学校等への地域社会・学校・家庭等での新たな支援充実ではないかと考えております。新たな会員の拡大を図りながら、前述した視点や地域での活動を地道に実践していく方策について、会員の皆様からのご意見やご提案をお願いしたいと考えております。ぜひ、事務局へご連絡いただけたら幸いです。

「2020オリンピック・パラリンピック東京大会」がだんだん目のものとなってきました。当会でも何らかの対応をしたいと考えております。

パラリンピックに限らず、各種スポーツ・文化大会等への参加・出場を目指している子ども達の汗と笑顔を、地域と共に一緒に励ましていきましょう。



「心に残る風景」

聴覚支援学校 小6 早川 寧々

各学校の紹介

いわき支援学校

本校は、いわき市平上神谷地区に位置し、主に知的障がいのある児童生徒が学ぶ通学制の特別支援学校です。今年度は、小学部76名、中学部53名、高等部82名の児童生徒が在籍しています。「よく考え学ぶ人」「心豊かな人」「じょうぶな人」の教育目標のもと、児童生徒一人一人の能力・特性に応じ、自立と社会参加を目指して、いきいきと生きる人間を育てるため、「丁寧」と「笑顔」を大切にしながら日々の授業づくりや学校行事、体験活動などに取り組んでいます。今年度四月より校名がいわき養護学校からいわき支援学校となり、気持ちも新たに教育活動に取り組んでいます。

今年度も、5月には小学部の「運動会」や中学部の「スポーツフェスティバル」、10月には学校全体行事の「風と雲のまつり」が行われました。小学部の運動会では学年ごとに様々な種目を設定し、児童たちが元気に取り組むことができました。中学部のスポーツフェスティバルでは紅白対抗で仲間と競い合いながら、日ごろの練習の成果を発揮することができました。また、風と雲のまつりでは、高等部の「よさこいソーラン」で開幕し、小学部のステージ発表では「ねこのおしやさん」「ありの行列」「オズの魔法使い」をテーマにした劇を行いました。中学部は「美女と野獣」をテーマにしたミュージカルを発表しました。作業製品販売会も行い、作業学習で作った製品を多くの方に購入いただきました。高等部では、作業学習で作った製品の販売会や喫茶などを通して、接客の基本的な姿勢を身につけたり、自分たちが作った製品を売ることの喜びを感じたりすることができました。

また、本校では交流学习や進路指導の充実にも努めています。交流学习では、近隣の小・中学校や高等学校、地域の方々との交流を行い、様々な活動や作業学習体験などを通して交流を深めています。また、中学部や高等部では、校内外での実習を通し、集中して働く姿勢や周りの人への挨拶、仕事への責任などの力を学んでいます。



今年度も、本会からの助成金は、小学部の運動会や中学部のスポーツフェスティバル、各学部の芸術鑑賞会の運営、教材・教具の充実に活用させていただいております。いわき支部会員の皆様に心より感謝申し上げます。



「ひまわり」
聴覚支援学校 小1
北村 花音

いわき支援学校くぼた校

くぼた校では、開校当初から取り組んでいる「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進に向け、その具体的取組を学校経営運営ビジョンに掲げ、生徒と教師が一緒になってその目標達成に向け取り組んでいます。

そのビジョンのひとつとして「交流及び共同学習の推進」があります。特にくぼた校と勿来高校との交流では、年々活動内容に変化や深まりが加わり、これまでの「共生プログラム」や「交流大運動会」をはじめ、教科学習や行事、生徒会活動等では、様々な学習活動が展開されています。今年度の美術科では、共同学習「揉み紙の巨大絵画～くぼた校・勿来高校共同制作～」に取り組みました。本授業は勿来高等学校70周年記念の制作活動であり、日本画の伝統文化についての理解を深め、制作に関する豊かな発想を広げるという目標のほか、グループにおける活動を通して、お互いの学習に取り組む様子や態度など両校の生徒同士について理解を深める貴重な学習となりました。くぼた校生からは、「一緒にできてよかった」「楽しかった」、勿来高校生からは「もう少し一緒にやりたかった」という感想が聞かれました。

もうひとつとして、「職業教育の充実（デュアルシステム型作業学習）」があります。近隣企業の各店舗の協力を得て、毎週1回、現場において教師の指導による作業学習を開始し、学期に10回程度の計画で実施しています。生徒は、社員の方から提示された業務を教師と共に真剣に取り組みながら職場での実践的な学習を行っています。



そして、実施日前後の1時間ずつを利用し、学習の振り返りとフォローアップをすることで、少しずつステップアップできるようにしてきました。通常の産業現場等における実習とは異なり、1回毎に丁寧な振り返りができるので、より効果的な学習につながっています。

くぼた校も今年で3年目を迎えました。勿来高校を始め、地域の方々とのつながりも年々広がり深まりを増してきました。今後も、たくさんの方々から期待される学校づくりを進めていきたいと考えますので、御理解と御協力をお願いいたします。

平支援学校

本校は、平上平窪地区にある肢体不自由のある児童生徒のための特別支援学校です。現在、小学部 53 名、中学部 21 名、高等部 29 名、計 103 名が在籍し、保護者の送迎や公共交通機関・スクールバス等で自宅から通う児童生徒、寄宿舎を利用して通学する児童生徒、隣接する福島整肢療護園から通学する児童生徒がいます。また、国立病院機構いわき病院内にある「病院訪問学級」や家庭での「家庭訪問学級」など、各々の状況に応じた形態での学習を通して『明るく 正しく たくましく』の校訓のもと、個々の能力や特性に応じて、卒業後の自立と社会参加に向け、学習活動に励んでいます。

今年度は、小中学部児童生徒会において、長い年月をかけて貯めてきたペットボトルキャップを「ふくしまキッズエコ運動事務局」に引き取りを依頼し、190 名分のポリオワクチンとして事務局を通して届けました。また、高等部のボランティア部においては青少年赤十字に加盟し、イオンにおいて献血キャンペーンの呼びかけをしたり、災害時の義援金や各種募金活動を校内で実施し関係団体に送ったりと、積極的に「支援する側」としての活動を実践しました。さらに、そのようなボランティア活動をした感想や障がいのある視点での生活における気付きを「高校生社会活動コンテスト」などで発表し、表彰を受け、さらに上位の大会での発表の機会を得ています。

本校では本会からの助成金を芸術鑑賞会に使わせていただいております。今年度は 10 月 25 日に新倉莊朗さん（アフリカの打楽器やピアノ・マリンバの即興演奏、即興ダンスが得意）と谷川賢作さん（ピアノ奏者）をお迎えし、実施しました。谷川さんの弾くピアノや鍵盤ハーモニカに合わせて、新倉さんがマリンバやティンパニ、ドラムでリズムを刻むと、その自由な雰囲気につられて小学部の児童達が机をたたいたり手拍子をしたりして音を鳴らし、自然に新倉さんの世界に惹きこまれている姿が印象的でした。最後は全員が鈴やタンバリン、マラカスなどの楽器で演奏に参加し、お二人の音楽の世界に浸ることができた一時になりました。

今後も様々な学習活動において、有意義に使わせていただきたいと思います。



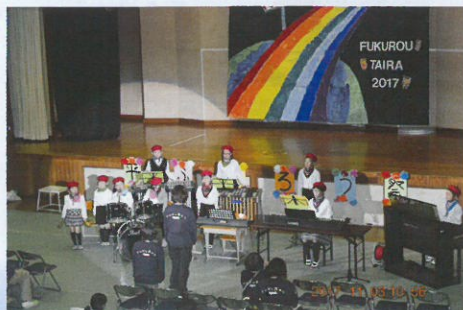
「すべりだい」
聴覚支援学校 幼
齋藤 琉翔

聴覚支援学校平校

平成 29 年 11 月 3 日（金）絶好の秋晴れの中、平ふくろう祭が行われました。4 月から校名が、「福島県立聾学校平分校」から「福島県立聴覚支援学校平校」に変わってから初めての平ふくろう祭となりました。幼稚部 1 名、小学部 10 名の計 11 名の幼児児童が、ステージ上で劇や音楽（歌・合奏）等を、元気にのびのびと発表することができました。

幼稚部は、3 歳児 1 名の発表でした。劇「てぶくろ」では、うさぎやいのしし、たぬきの母親役の先生方との絶妙なやりとりが展開され、たぬき役の幼児の台詞や行動に観客の皆さんからのあたたかい拍手や微笑ましい様子が見られました。3 歳児の A 君にとっては、はじめてのステージ発表でしたが、堂々とした発表で、観客の皆様の笑顔を誘っていました。

小学部は劇「バルバルさん」の発表でした。小学部は 10 名の発表でそれぞれの児童は自分の役を意識し、役になりきり、台詞をゆっくり、大きな声を出したり、大きく体を使って手話を表現したりすることができました。特に、バルバルさん役の 6 年生 2 名は、練習段階から下級生の児童のまとめ役もこなし、たくさんの台詞や手話を覚え、わかりやすくステージ上で表現することができました。小学部はその他に、音楽発表、ダンス、作文の発表（高学年）



も行いました。合奏コンクールに出品した楽曲「威風堂々」を演奏し、それぞれが楽器を演奏し、友達に合わせ、調和のとれた合奏にしようと努力を重ねてきました。

特別支援教育振興会の補助のおかげで、舞台での小道具、大道具等子どもの衣装等の準備物が充実し、幼児児童も大変意欲的に平ふくろう祭に向けての学習に参加することができました。また、お客さんの「よかったよ。」「すばらしいね。」の賞賛の声かけに子ども達も満足そうな笑顔を見せてくれました。今後とも、聴覚支援学校平校への御支援をよろしくお願いします。



温かいご支援をいただき、ありがとうございました。

平成 29 年度 一般会計歳入歳出予算書

歳入総額 976,484 円
歳出総額 976,484 円
差引残高 0 円

1 歳入の部		976,484 円					
款	項	目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘要	
会費収入	会費	会費	675,000	675,000	0	1,000円×400口 2,000円×25口 5,000円×25口 10,000円×10口	
積立金取崩	積立金取崩	積立金取崩	100,000	0	100,000	パンフレット作成に係る経費として一般会計へ繰り入れ	
諸収入		預金利息収入	150	150	0		
		寄附金	0	0	0		
		補助金収入	0	0	0		
		雑収入	0	0	0		
		繰越金収入	201,334	328,544	△127,010		
合 計			976,484	1,003,494	△27,010		

2 歳出の部		976,484 円					
款	項	目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘要	
会議費	会議費	会議費	5,000	5,000	0	資料等	
負担金	負担金	負担金	20,000	30,000	△10,000	県特別支援教育振興会支部負担金	
補助及び交付金	補助及び交付金	補助及び交付金	500,000	700,000	△200,000	特別支援教育助成金(2校2分校) 特別支援教育体連(振込手数料含む)	
			403,000	180,000	223,000		
事務費	事務費	旅費	10,000	15,000	△5,000	県合同会議支部長旅費	
		需用費	350,000	125,000	225,000	会報(カラー)、パンフレット、封筒、HP運用経費	
		通信費	35,000	32,000	3,000	総会案内、会報、パンフレット発送料	
		手数料	8,000	8,000	0	会費郵便振替手数料	
積立金	積立金	積立金	0	0	0	パンフレット作成経費(4200,000)へ充当する	
予備費	予備費	予備費	48,484	88,494	△40,010		
合 計			976,484	1,003,494	△27,010		

3 差引残高 0円
4 支部長の承認を得て科目間の流用を認める。

平成 29 年度 福島県特別支援教育振興会
いわき支部役員名簿

- 【顧問】 長谷川浩一 青木 稔 諸橋 義隆
渡辺 敬夫 小野 哲司
- 【支部長】 大谷 明
- 【副支部長】 酒井 好雄 赤津 修 早川清太郎
- 【監事】 遠藤 光子 矢吹 美良
- 【理事】
- (平方部) 小野寺典子
 - (小名浜方部) 酒主 照之
 - (小川・川前方部) 鈴木 茂信
 - (社団法人いわき市医師会)
 - (福島県立いわき支援学校) 齋藤 秀美 杉山 裕恵
香取 重治
 - (福島県立いわき支援学校くぼた校)
 - (福島県立聴覚支援学校平分校) 曾川 孝規 鎌田 和子
 - (福島県立平支援学校) 持館 康成
門馬 栄 阿部 和行
小野 美花
- 【事務局長】 門馬 栄 (平支援学校長)

活動紹介 福島県特別支援学校作業技能大会

毎年夏に、「福島県特別支援学校作業技能大会」が開かれています。今年度は8月9日に郡山のビッグパレットで行われました様子を紹介します。

目的

- 各校が進めている作業学習などの取り組みの客観的評価や、各学校間での情報交換を行い、学習の充実を図る。
- 県内の事業主へのPRの機会と、実習受け入れや雇用機会の拡大を目指す。



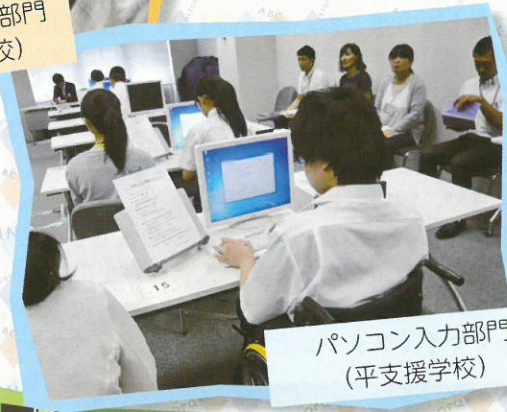
喫茶接遇サービス部門
(いわき支援学校)

作業製品品評会



パレッタ 最優秀品質賞
(いわき支援学校)

ID ケース 金賞
(いわき支援学校)



パソコン入力部門
(平支援学校)



ビルクリーニング部門
(いわき支援学校くぼた校)



学校紹介ブース
(いわき支援学校くぼた校)